

# 家庭教育支援者から見た いまどきの子育て

少子化や核家族化、個人主義の浸透などにより、地域の大人が地域の子どもにかかわる機会が減ってきていると言われています。

そのような中、自らの子育て経験を生かしながら、地域のボランティアとして、手遊びや童謡などの親子で楽しむイベントや親学講座の講師、託児などの家庭教育支援活動を、積極的に行っている「家庭教育支援者」の方々が多数いらっしゃいます。家庭教育支援者は、家庭教育オピニオンリーダーや親学習プログラム指導者、家庭教育サポーターなどの団体に所属し、多岐にわたる活動に取り組んでいます。

今号では、家庭教育支援者の方に情報誌作成委員になっていただき、「いまどきの子育て」をテーマに、多くの事例をもとにいろいろなお話をさせていただきました。日頃から子育て中の親と多くの関わりをもち子育てを客観的に見ているため、子育て中の皆さんにとって新たな気づきにつながるかもしれません。

教育は長い目で見ていくことが大切ですが、子どもが産まれたときの「健康で元気に育てほしい」と願った気持ちを思い出しながら、日頃の子どもとの関わり方などを振り返っていただければ幸いです。



## 1 家庭教育支援者が感じる「いまどきの親の姿」

昔も、今も、子どものために親は頑張っています。

家庭教育支援者が日頃感じている、その頑張りの一部を紹介します。

### ●子どもに一所懸命



子どもの行動を把握していることは、とてもすばらしいことです。



必要以上に子どもとべったりし過ぎる場面を見かけます。  
子どもの自主性を育てるために、時には見守ることも大切ですね。

### ●気持ちのよいあいさつ



ほとんどの方は隣り近所の人など、地域の人に笑顔であいさつしています。その姿を、子どもはよく見えています。



残念ながら、一部にあいさつをしない方もいます。お互いのため、そして子どものため、気持ちよく接していきましょうね。



### ●公共の場でのしつけ



スーパーや子どもの家などの公共の場において、子どもが迷惑な行動をした際、なぜそのようなことをしたのかを聞き、そのうえでなぜ良くないのか、諭すように子どもに話している場面をよく見かけます。



上記のような場面で、頭ごなしに「恥ずかしいからやめなさい」と大声を出し、子どもがなぜ叱られているのか分からない言い方をすることや、何も注意しない親も一部に見られます。